様式６

幼児教育長期派遣通信　１学期号

発行　令和７年９月９日

東広島市立下黒瀬小学校　仁井　貴士（派遣園：広島大学附属幼稚園　東広島園舎）

１　１学期の研修内容

(1) 園内研修→年長担任として子供理解と環境を大切にした保育実践
園内外環境整備、園行事参加、保育カンファレンス
ESD に係わる研究など

(2) 園外研修→コーディネーターとして自校のスタートカリキュム実践
下黒瀬小学校区の幼保小連携強化の取組、研修報告会
東広島市幼保小連携担当者会での実践報告など

２　研修を通して

幼児教育長期派遣研修２年目です。今年度は、広島大学附属幼稚園（東広島園舎）の年長担任の立場と、所属校である東広島市立下黒瀬小学校のコーディネーターとして研修に臨んでいます。

年長担任として大切にしていることは、昨年度、研究テーマに置いて重点的に研究してきた「子供理解」と「環境」です。一人一人の子供がもっている可能性を見取りながら、遊びのストーリーを把握し続け、子供の力を信じ「任せ」「見守り」「待つ」ことをしています。もちろん、それぞれの子供のその時に必要だと考えられる多様な援助も行っています。また、「人」「もの」「こと」に加えて、その時を大事にする「時」の環境も大切にしながら保育を行っています。

そこで今回は「環境」を大切にした、今年度の小学校スタート時での実践をまとめました。

○教室環境をリノベーションしていくことで、幼児期の生活や遊びがつながっていく！

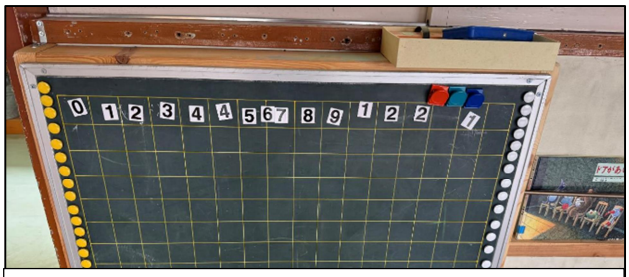
「遊び」が創れるスペース

１年生教室の隣に「生活科ルーム」を作りました。児童机やイスなどを全てなくし、児童の多様な動きが可能なスペースとしました。余白のある空間があることで、児童が自ら遊びの環境をつくることや、サークルタイムやグループ活動など多様な対話が生まれています。

児童が本を手に取りやすい環境にしました。教師が子供の姿と学習のつながりを見ながら意図をもって本を並べることもしますし、児童がお気に入りの本を置いておくこともできます。そして、児童が自ら移動できるベンチがあることで児童が自分たちで環境をつくっています。

やってみたい！
が詰まった箱

幼児期によく遊びで使われている積み木を小学校の環境に入れました。高く積んでみることや、色々な形を作ることなど、児童の遊びの経験を生かして、友達と協働しながら遊ぶ姿が見られています。



マスのある黒板を児童の目線の高さに設置しました。数字プレートを使って計算を友達としてみたり、ドット磁石を比べたりしながら数のやりとりがされています。

つい座りたくなる
中庭のベンチ

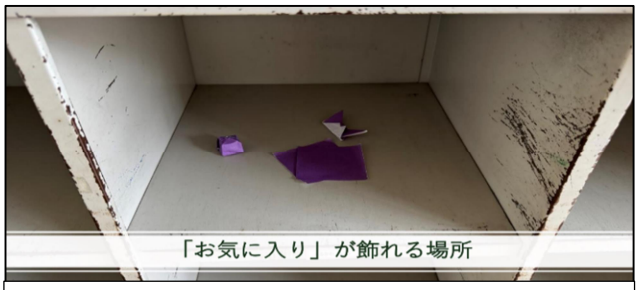
１年生教室、生活科ルームから見える中庭にベンチを設置しました。様々な生き物と出会える場所でもあります。ベンチは時折、机になったりベンチになったりしながら様々な気付きや発見が共有できる場になっています。

遊びから始まる「言葉」の楽しさ

ひらがなの文字を黒板で自由に動かせるようにしました。偶然できた言葉を声に出して言ってみたり、新しく習った文字を使った言葉づくりをしたりするなどの活動も行われています。

「高さ」が
違う作業机

児童用机とイスを全てなくして、高さの違う作業机を３つ作りました。児童が自ら環境を選択しながら自分がしたいことを実現していくことができます。高さが違うことで様々な遊びも生まれています。



「お気に入り」が飾れる場所

後方のロッカーや壁面は、全て児童のお気に入りが飾れたり、遊びの続きができるように自分の場所が保障されたりしています。そういった場所があることで、児童相互のかかわりも広がっています。

教室プラスの考え方で実践したことで、ありのままの自分を出しやすい環境となった生活科ルームと、従来の学習スタイルがある教室とで、子供たちの学びが往還するような姿が見られています。生活科ルームの遊びの中での気付きが教室での学びにつながったり、教室で習ったことが、生活科ルームで遊びの中で発展していったりと、幼児期に遊びの中で培ってきた経験がつながっています！

〈乳幼児教育支援センターより〉

昨年度１年間の学びを生かし、子供たちが安心して自己を発揮できるよう環境を整えることができました。単に遊び道具等を置いた部屋ではなく、子供が使っている所を想像し、何をどこにどのように配置すると子供の安心や挑戦、繋がりが生まれるかまで考えられた仕掛けの豊かな部屋となっています。大切なことは子供の姿に合わせて環境を調整することです。